

養護教諭として働くために

柴田町立槻木小学校 養護教諭 吉本有希

略歴

平成21年4月～24年3月 登米市立柳津小学校，登米市立つやま幼稚園兼務
平成24年4月～29年3月 登米市立石越中学校
(平成26年4月～28年3月 兵庫教育大学大学院派遣)
(平成28年1月1日～平成29年3月31日熊本地震により熊本県御船町立小坂小学校派遣)
平成29年4月～ 柴田町立槻木小学校

私が働く柴田町立槻木小学校では、「命を大切に
し，共に学び，共にきたえ，共に伸びる児童を育て
る。」を学校目標に，日々の教育活動が行われてい
ます。

生徒指導では，思いやりのある児童の育成のため
に，あいさつ・返事・くつそろえの励行，廊下歩行
の徹底，無言掃除の徹底に取り組んでいます。先日
の集会では，児童が扮した「槻木小学校あぶくま児
童会イメージキャラクター あぶくマン」が，あ
いさつや無言清掃の正しいやり方を，寸劇やクイ
ズで全校児童に伝えていました。



あぶくま児童会
イメージキャラクターあぶくマン

保健の活動では，歯科指導に力を入れています。児童会の保健委員会では毎
月1回各クラスにブラッシング指導を行っています。また，毎年学校歯科医や
町歯科衛生士による，歯科講話と歯の染め出し，ブラッシング指導も全学年に
行っています。このように1年を通して児童が自分の体を振り返る機会を作り，
健康を守る姿勢を育てる取組をしています。



柴田町立槻木小学校の校舎 体育館が校舎の中央にあるめずらしいつくりです

養護教諭の仕事は、保健室で子どもの手当をするイメージが一般的かもしれませんが。しかし実は、学校職員、保護者の皆さん、そして、医療機関や業者さん、町や県の方々など、多くの方の協力を得なければできない仕事です。そのため、日頃学校内や地域の先生方に教えていただいていた研修や、災害対応など最新の課題についての県主催の研修は、仕事をしていく上でとてもありがたい機会です。

災害後の派遣について

東日本大震災が起きた3年後には、「心的外傷対応能力養成大学院への派遣」という事業で兵庫教育大学大学院へ行き、阪神淡路大震災時、災害の対応や心のケアに当たられた先生方から学ぶ機会を得ました。昨年熊本地震が起きた後には、兵庫で学んだことを生かし、東日本大震災で助けていただいた恩返しもするために、派遣されました。



派遣された熊本県御船町立小坂小学校

派遣された小学校では、養護教諭として保健室に来る子どもたちの手当をしたり、お話ししたり、一緒に給食を食べたり、心の授業をしたりと、たくさんのお話をさせていただきました。いろいろなことをしましたが好評だったのは、子どもたちと関わることで、研修会の開催です。

子どもに声をかけて話をしたり聞いたりすることは、当たり前で単純なことですが、不安や心配なことがあるときはとても心強い力になるようでした。そして先生方に対しては、派遣先の養護教諭さんと連携し、兵庫教育大学大学院でお世話になった心の専門家を呼んで、地震後1年を迎えるに当たっての心構えとリラクゼーションをしていただきました。「こういうこと聞きたかった」という感想をもらいました。

人を支えるのはやはり人なのだ、改めて感じた5か月間でした。そして、子どもに対しては日々声をかけること、先生方に対しては、毎日の勤務の中で必要としているであろう保健情報をキャッチして、提供することを大事にしていこうと思いました。

終わりに

教員の道を志すみなさん、宮城県は、一人一人の持ち味を発揮できる場だと感じます。教員になった今でも、それぞれの持ち場で力を合わせて働く先生方は、とても魅力的です。

自分の持つ貴重な力に自信を持って、安心して受験されてください！



槻木小学校の保健室